

# 平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果

京都市立下京涉成小学校

4月18日に、本校6年生を対象に実施された「全国学力調査」について、結果がまとめました。本調査は、国語と算数の2教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

## 総合結果（国語・算数）

国語、算数ともに平均正答率は全国平均を上回る結果でした。国語領域「話すこと・聞くこと」、算数領域「量と測定」は、全国平均を大きく上回っていました。課題のある領域については、全国平均と傾向は同じくしており、国語領域「書くこと」、算数領域「図形」と「数量関係（割合）」を組み合わせた問い合わせの正答率が低く、課題がみられました。

### 国語科より

#### 国語A(主として知識)

「話すこと・聞くこと」領域の問題は10ポイント上回っており、互いの話を聞き、共通点や相違点を整理して、進行に沿って話し合う力がついていることがわかります。一方で、全国平均より下回り、さらに正答率が5割を切っている課題が、手紙の構成の理解です。日常生活につながる力を確実に身に付けることが今後の課題です。また、漢字の書き取り問題で、「参加したいしよう」の正答率が50%を下回っていました。同音異義語の理解は、今後書くことよりも入力するが多くなる言語環境において必要な力といえます。

#### 国語B(主として活用)

全体としては、全国平均を上回っていますが、領域別、解答形式ごとに見ると課題が見えてきます。「話すこと・聞くこと」領域では、目的に応じて話すことなどスピーチに関する選択式の問い合わせは80%近い児童が正答しています。一方で、スピーチメモを実際に書く記述式の問題になると、正答率は50%を割っています。「書くこと」の問題においても、文章の構成や引用についての問い合わせも選択式なら8割近い正答率が、実際に内容を記述する問い合わせになると正答率が下がるという同様の傾向がみられます。無回答率は0%なので、着実に問い合わせに書かれている条件を理解して書く力をつけていくことが重要な課題です。

### 算数科より

#### 算数A(主として知識)

全体的には、すべての領域において、ほぼ全国平均であり、「量と測定」領域では7.7ポイントも上回っていました。一方で、「数と計算」領域の「 $5 \div 9$ 」の商を分数で表す問題で全国平均を下回り、さらに正答率が6割を切りました。今後、第6学年の学習では、比の値を求めるときにも分数が用いられることが確認していくことが求められます。また、「未知の数量を表す□を用いて、問題場面を除法の式に表す」問題に課題がみられました。

二次元表の分類整理や合計人数を書くといった問題は正答率が8割を越え、生活する上で活用する力につながっていると考えられます。

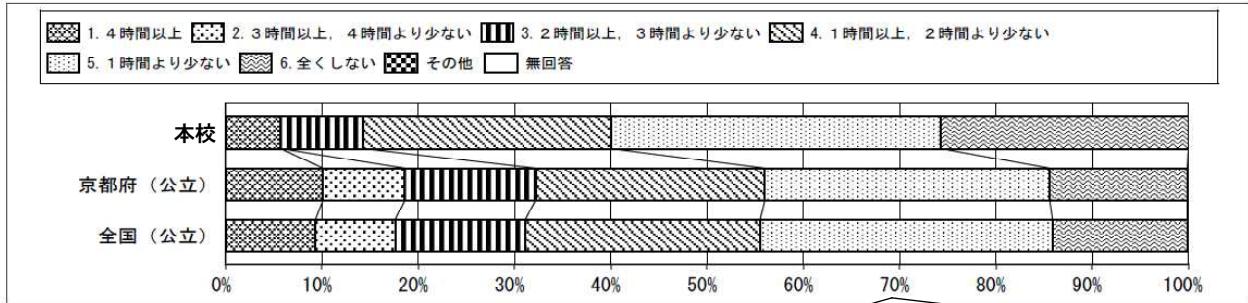
#### 算数B(主として活用)

全体としては、正答率は5割程度で、全国平均を6ポイント上回っていました。特に、全国平均を大きく上回っていたのは、「量と測定」領域の「平均」に関する問い合わせでした。求め方を記述する問題で20ポイント上回っており、実験結果の数理的な処理や問い合わせで示された平均の求め方を解釈し、別の場合に活用して数学的に表現することができました。

一方で、全国平均を大きく下回っていたのは、身近なものに置き換えた基準量と割合を基に比較量に近いものを判断し、その理由を言葉や式を用いて数学的に表現する課題でした。日常生活の中には、算数で学習したことを活用して、数学的に処理し合理的に判断できる場面があります。普段の生活の中で、大人が意識して、そのような場面に気付かせる働きかけも大切です。

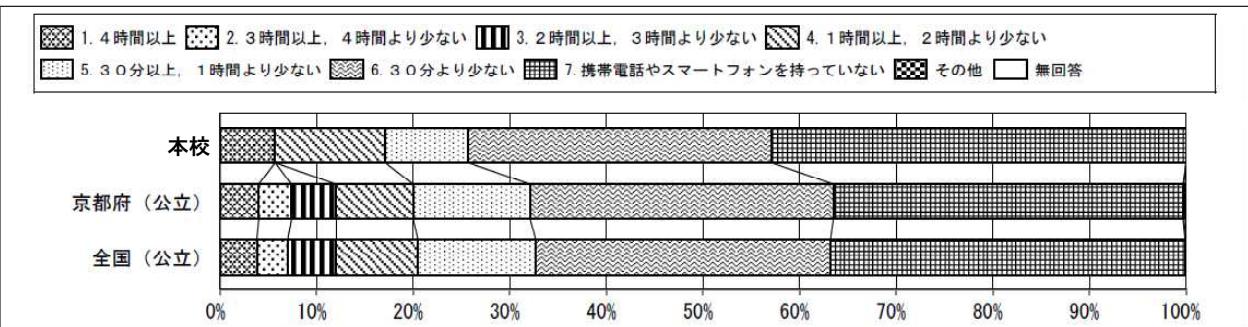
## 児童質問紙調査より

(1)普段(月曜日から金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, テレビゲーム(コンピュータゲーム, 携帯式のゲーム, 携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか。



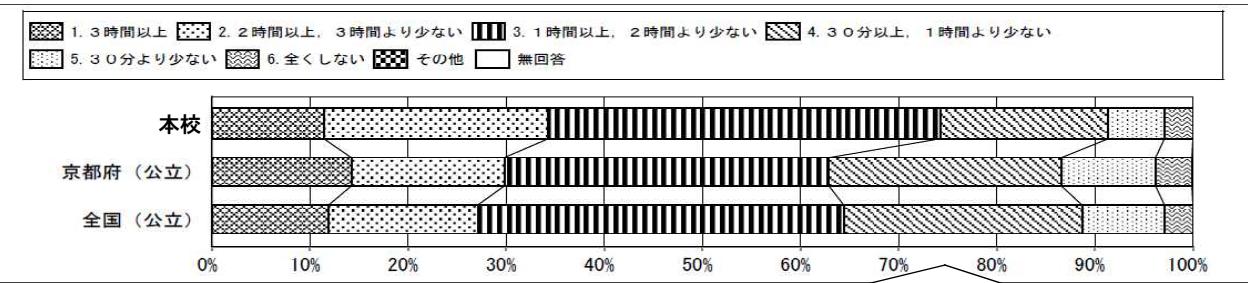
「全くしない」25.7%「1時間より少ない」34.3%という児童が60%という結果は、全国平均より良好といえます。一方、ゲームを1時間以上している児童が40%もいる現状は、大変心配されます。学校や習い事などが終わって自宅に帰って就寝するまでの時間を考えると、1時間以上のゲーム時間は多すぎるのではないかでしょうか。

(2)普段(月曜日から金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, 携帯電話やスマートフォンで通話やメール, インターネットをしますか。(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く)



82.9%の児童が1時間以下の使用時間となっているのは、ほぼ全国平均と同じぐらいです。しかし、5.7%の児童が平均を上回っているのが心配されます。自宅に帰ってから、ほとんどの時間、画面に向かっているのではないかでしょうか。家庭でのコミュニケーションの時間はとても大切です。

(3)学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日), 1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)



1時間以上学習している児童の割合が、74.3%という結果は、全国平均より高く、家庭学習が定着していることがうかがえます。一方で、学習時間が1時間以下という児童が25.7%と4分の1という状況は、今後中学校に進学してからを考えると、大変心配されます。学年×20分を目標に、小学校のうちに机の前に最低2時間は向かうという習慣をつけておきたいものです。

## 保護者の皆様

6年生の学習状況調査から、成果と課題が見えてきました。学力・学習状況とともに、概ね全国平均よりも良好な状況が見えてきたことは、根底に家庭・地域の教育への関心の高さがあると考えています。これからも、学校では、家庭・地域と連携しながら、主体的・対話的で深い学びを追究していきます。6年生の姿は、1年生から5年生の児童の数年後の姿です。10年後20年後の社会で生き抜く力とは何か、常に問い合わせ続けて指導にあたっていきます。